



外傷予防
の取組

事故やけがで入院すると、体の痛みに加え、不自由な生活を強いられます。
今回は、入院患者の医療データなどからみてきた、受傷の傾向などを紹介します！

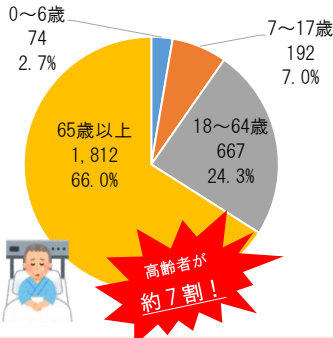
事故やけがによる入院患者について年代別で分析すると、**高齢者が約7割**を占めており（※1）、入院につながるけがを負うリスクが高くなっています。受傷部位では、**股関節や胸椎・腰椎、頭蓋**など体のかなめとなる部分のけがが多く、退院までの**医療費は100万円以上**（※2）かかってしまいます。一たび入院すると、日常生活が奪われるだけでなく、経済的な損失も大きいことがデータから分かりますね。

※1）鹿児島市内3病院に「外傷・熱傷・中毒」により入院した患者（救急入院を含む）の医療費等のデータ（2020年度）

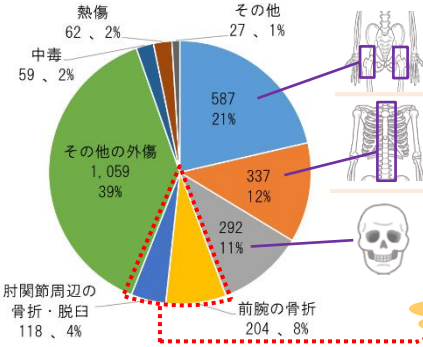
※2）医療費は、入院期間中（回復期含む）に要したすべての請求額（10割）。食糧費、自由（自費）診療分除く。自賠責保険・労働災害保険を除く。医療機関別係数を除く。



年齢層別入院患者数



受傷別入院患者数



受傷トップ3

医療費

股関節大腿近位骨折

約250万円

胸椎・腰椎以下骨折損傷
（胸・腰椎損傷を含む）

約200万円

頭蓋・頭蓋内損傷

約100万円

腕のけがも多くなっています。

本市の入院患者の状況について確認しましたが、原因はどこにあるのでしょうか？

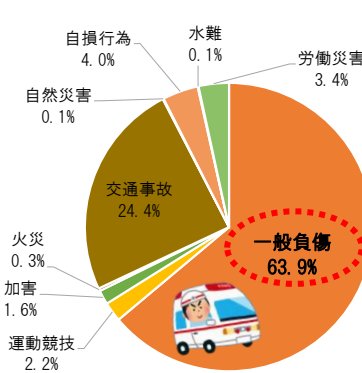
鹿児島市消防局の救急搬送データ（2020年度）によると、**救急搬送の6割**（※3）が**一般負傷**によるものであり、さらに**そのうち約8割**を「**転倒・転落**」が占めています。

また、転倒・転落は**65歳以上の高齢者**や**0～6歳の子ども**で多くなっており、中でも、**自宅内、特に居室（居間、寝室など）**や**廊下**などが多いようです。自宅でするけがの予防に一緒に取り組みましょう！

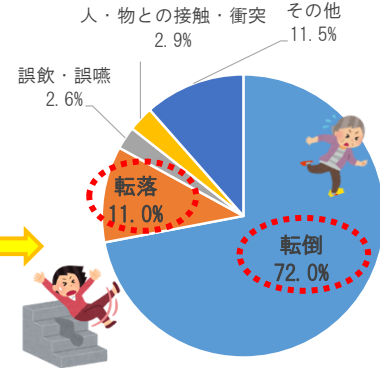
※3）急病、転院搬送、その他を除く

事故種別救急搬送件数の割合

（急病、転院搬送、その他を除く）

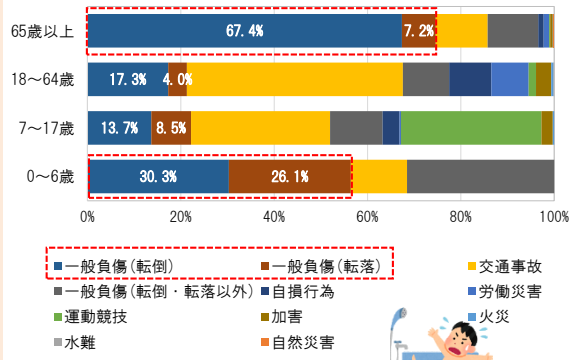


一般負傷の内訳



事故種別・年齢階層別救急搬送件数の割合

（急病、転院搬送、その他を除く）



自宅内の転倒予防のポイント

住み慣れた自宅は安全だと思いがちですが、**わずかな段差**でもつまづく原因となります。住環境を整えることで、事故やけがを防ぎましょう！

自宅内をチェックしてみましょう

- 家の中ではスリッパをはかず、**素足かすべり止めつきの部屋履き**をはく。
- 室内の**電化製品のコード**に足を引っ掛けないうままとめておく。
- 段差に**目印のテープ**を貼る。
- 足元が暗い場所に**照明を設置**する。

など



この他にも、
●深夜、十分に目覚めていないままトイレへの移動はしない
●1, 2cmの小さな段差こそ気を付けるなど、自分自身でも転倒しないための行動を心がけましょう。